

新生児 Special Care Unit (NICUを含む) における母子相互作用の臨床的・心理行動科学的研究

分担研究者 小川次郎(聖隷浜松病院)
研究協力者 神谷育司(名城大学)
白岩義夫(金城大学)
川俣真理子(聖隷学園浜松衛生短大)
田中文彦(遠州病院)
柴田隆(聖隷浜松病院)
小寺妙(〃)
内堀さつき(〃)
林久世(聖隷学園浜松衛生短大)

はじめに

望ましい母・子関係とは、出生時より母親から子への愛情による絆で結ばれた適切な刺戟が提出されることである。

しかしながら、不幸にして出生の時点で、未熟児であるといった理由で特別の養護を受けなければならぬ新生児がいる。これらの新生児は、母子分離が余儀なくされるのであるが、この早期の母・子分離は、母子の行動に変容を来し、その後の子供の成長・発達に負の要因をあたえたとの研究があり、注目されている。

われわれの施設では、子どもの全人的な成長・発達にとって、早期の母・子分離は決して望ましいことでなく、母親の子どもへのふれあいがあるべき姿を考え、感染防止に充分留意して、可能な限り早期に施設内において母子の接触を実施している。

ここに、われわれのNICUを含む新生児特別養護施設(以下未熟児センターと云う)における早期からの母子接触が、いかなる相互作用をもたらし、Bondingの問題にいかなるよき効果を期待が出来るものかなど、その早期接触の意義を解明するため、以下にのべる諸種の調査、観察、測定することを意図して本研究を行う。

研究対象

対象は、聖隷浜松病院未熟児センターに入院した新生児とその母親である。これらの対象の中より母・子相互関係をより綿密に検討するために若

干のcaseを選び、これをintensive caseとした。

研究方法

本研究をすすめるにあたって、研究方法の概容についてのべてみる。第1の方法は、未熟児センターに入院した新生児の母親を対象とした意識調査である。表1、(a)(b)に示すような、多肢選択形式の21項目からなる質問紙調査である。なおこの表1 a bの質問紙には自由記述形式の項目が3つ含まれている。それらの項目22の「担当の先生から赤ちゃんのことでどのようなことを聞きましたか」

項目23では「赤ちゃんのことでお母さんが今一番気がかりなことは何ですか」項目24で「お母さんが未熟児センターに対して感じていることを何んでもよいから書いて下さい」という項目である。

第2の方法は母・子相互関係をより綿密に検討するintensive caseについてのもので入室中の母親が子に対しての時の態度行動を観察するものである。これは表2に示される如く評定尺度法による10項目からなる観察表である。第3は母と子の接触を子どものHeart RateとRespirationという心理生理学的測定を示標としてその影響と効果を検討するものである。この研究で観察群はより頻繁に来院し子どもとの接触をもつ群であり、測定の方法は母親及びナースにより対象児への接触直前、接触中、接触直後の各数分

間(5-10分)行うもので、この群の母親条件とナース条件は同じ日のうちに実施する。統制群は母親の長期入院等の事情で子との接触が困難な者であり観察群と同様の測定をナースによる接触のみで行うものである。このIntensive Caseの接触時の母・子相互関係の状況はVideo Tapeに録画し観察結果の検討に際しての資料とする。第4の方法は表3に示される如く子どもの退院の時点での母親の意識調査である。入院から退院に至るまでの過程で母親にどのような意識の変化が生じたかを捉えるものである。

研究結果

研究は緒についた段階であり今年度の研究報告は方法1の結果を主体に方法2による入室中の子に対する母親の行動観察結果である。

1981年1月末までに実施した質問紙調査の数は40である。回答者の母親の平均年齢は28.05歳(±4.18)で父親の平均年齢は29.77歳(±4.40)である。子どもの出生順位は第1子が21名、第2子が10名、第3子が8名、第4子が1名である。出生時の体重の平均は1968g(±363.6)で990gから2450gの範囲である。なお1500g以下の極小未熟児が5名含まれている。在胎週数の平均は35.1W(±3.14)で27W3dから41W4dの領域である。

質問紙調査21項目の反応結果はAの母親の母性意識、B妻からみた夫及び家族の態度、Cの母親の子に対する意識や態度といった面から検出される。この21項目の反応傾向は表1のa、bに示される如き結果である。

母親の母性意識を問題とした1の“あなたは中学を卒業してから結婚するまでの間子ども好きでしたか”の設問で(イ)のとても好きでしたに反応している者が15名の37.5%で(ロ)の好きな方でしたには17名の42.5%の者が回答している。これに対し(ハ)のあまり好きでなかったには8名の20%で、(ニ)の嫌いだったには1名も反応していない。以下、母性意識を問題にした2、3、4、そして8、の各項目では(イ)及至は(ロ)の好意的反応が8割以上である。Bの母親の目からみた夫ならびに家族の態度については項目5の“あなたの夫は子ども好きですか”で(イ)のとても好きであるに25名

の62.5%が(ロ)の子ども好きのほうであるに14名の30.5%、(ハ)のあまり子ども好きほうではないに1名が回答している。項目16の“お母さんが何か心配ごとがあるとき、御主人の態度はどうですか”について(イ)のなんでも気軽に相談にのってくれるが32名の80%であり、(ロ)の話は聞いてくれるが具体的なことは云ってくれないに5名12.5%が反応している。項目15は未熟児が生まれたことに家族はどのように反応したかであり、暖かく迎え元気づけてくれたとする者が32名の80%で別にいつもと変らなかったとする者が6名の15%あり、なんとなく冷たい態度だったと答えているものが1名いる。

Bの項目でも全般的に(イ)乃至は(ロ)の好意的反応が優意である。

AとBの反応について項目3と6、4と7とで若干異なった傾向がみられる。3と6について母親の反応は(イ)のすぐには欲しいと思わなかったが8名の20%であるのに対し、夫の方は2名の5%である。また項目4と7で妊娠したことを知った時の意識で母親自身より夫の方が喜ぶ割合が多かったと反応している。

Cの母親の意識及び態度については項目9の出産以前に未熟児が生まれるのではないかと思いますかでは(イ)の全く考えなかったが15名の37%で、反対に(ハ)の不安な気があったとする者が14名の35%である。項目10は出産時の子どもの状態を夫から話された時母親としてどんな気持ちであったかを聞いた設問であるが、夫から全く心配ないと云われ安心したという母親が19名の47.5%であり、夫の話しだけでは心配だったとする者が13名の32.5%である。

また夫の話しだけではかえって心配が増したとする者が2名である。赤ちゃんが未熟室に入っていて子どもと離れた状態での母親の気持は病院を信頼していたので心配しなかったとする母親が12名の30%に対し、赤ちゃんのことが気がかりだったとする者が17名の45%であり、また、子どもにかわいそうだと思ったとする母親が10名の25%である。未熟児が生まれたことで母親としてはどんな気持ちであるかに対しては赤ちゃんに悪いと思ったとする母親が31名の75%である。面会できるまでの気持は早く会いたくてしか

たがなかったとするものが36名の90%である。そして、子どもに会ったとき自分の子どもであるという実感がもてたかに対しては自分の子どもという思いでいっぱいでしたとする母親が22名の55%であり、赤ちゃんに触れてよいと云われた時は触れてみたくてしかたがなかったのでうれしかったとする母親が24名の60%である。赤ちゃんに触れた時の感じは、はだのぬくもりを感じ胸にせまるものがあるとした母親が24名の60%である。そして項目17に示される如く1名の無応答を除き全員が丈夫な赤ちゃんに育てほしいと期待し、養育していくうえでの自信のほどは自信がなく不安であるとする母親は1名で、32名80%の母親は自信があるとはいえないがやっていると答え、6名の母親は自信をもって育ていけるとしている。なお、この表1 a bの各項目の反応数の合計が40と100にならないのは(外)のその他と無応答を除外したからである。

自由記述による項目(22)では医師から子どもの健康状態について問い質しているものが多く(23)にあっては健康な丈夫な赤ちゃんに育てくれることを強く訴えている。そして24では養護に当る医師や看護婦に対し感謝の念を披瀝している。

集中治療施設内で母親が子どもに接している状況を観察し面接によって母親の心理的状況を調査した。生下時体重1460g在胎週数36W4dの院内で出生したL.B.Wの男児の場合、本児は第1子であり1980年10月8日に入院し11月20日までの退院するまでの43日間に母親は11回面会している。11回の面会の間に5回その母子相互関係を観察したが、初回は入室すること事態にためらいがみられ促されて入り、保育器の中に手を入れるのもこわごわとした様子がみられる。然し、3回目頃からは自分から進んで入室し、保育器の中へ手を入れ左手に頭をかかえて抱く様な仕様がみられる。時には子どもの頬を軽くつつくといった動作も観察される。

面会した母親が異口同音に話すことは面会に来た折、子どもが少しでも目を開けていることが一番うれしく会いに来た甲斐があると報告している。母と子の目と目の触れあいには母親に価値ある意義深いものを与える。

結果の考察

未熟児センターに入院した新生児の母親40名を対象に、自由記述3項目を含む24項目からなる質問紙により母親の母性々、出産時の頃の子どもへの意識、夫並びに家族の母親からみた意識を問題した調査である。

質問項目で母親の母性々は平井信美の母性愛の研究を参考にしたものである。この母性愛とは何かについて同研究でその本質を母親の子を思いやる心であり、母親に子どもの心をくみとる能力が備わっているかに関わるものであると規定している。母性々をどのように規定するかは大きな問題点であるが、この母性意識は母子相互関係を考えるうえでの規定要因であり、かつ重要な先行変数である。

研究対象の母親達の母性意識への反応は好意的反応が多く、母性々を否定する反応、例えば“中学を卒業してから結婚するまでの間子ども好きでしたか”にはきらいだったとする反応や、結婚後に子どもを欲する気持や妊娠を知ったときの気持でも否定的な傾向はみられない。この結果は平井の研究と同様な反応を示している。

未熟児が生れたことに對し、母親の多くは子どもにかわいそうなことをしたといったかなり強い罪の意識にとらわれている。これも一つには母性々の現われと解釈出来る。そして子どもにかわいそうなことをしたといった意識を強く持つ反面、これからの子の育児にさらに一層の努力を傾注し心身ともに健康な子どもに育てなければならないと考えている。

母親が示す子への愛情の発露は母親の面会が子の覚醒時に遭遇し目との触れ合いを体験した際示す喜びに示される。親が子を見る時の所作は面対面の関係で対峙し、その際目と目が合うことに強い関心を持ちそれを求めている。

母親の子どもへの愛着的絆は相互的な目の見合という刺激や、体の動きといった信号を享受することが要因として働き形成されると考えられる。早期に母子を接触させることは愛情的行動の形成に重要な影響を与えるものである。

我々の研究はまだ緒についた段階であり、今後一層多くの資料を収積し、早期の母子接触はその過程で両者にいかなる影響をもたらすのかその効

果のほどを明らかにすることである。

この研究を進める過程で論議されたことは、母体並びに胎児期の環境要因がその後の成長発達にいかなる影響を与えるのかといった問題や、早期

接触の意義についても、その有効性を測定するに当っては長期に観察し追跡研究する必要があるといった問題である。我々は、これらの問題に対しても併せ検討し研究に取り組む考えである。

表1. a M-S Ⅵ1. 質問項目に対する反応

A 母親の母性意識

1. あなたは中学を卒業してから結婚するまでの間、子ども好きでしたか

イ	とても好きでした	15	37.5%	ロ	好きな方でした	17	42.5%
ハ	あまり好きでなかった	8	20.0%	ニ	きらいだった	—	—

2. あなたはあなた自身が子どものころお母さんに対してどのような印象をもっていましたか。

イ	とても暖かだった	21	52.5%	ロ	暖かい方だった	19	47.5%
ハ	あまり暖かくなかった	—	—	ニ	冷たかった	—	—

3. あなたは結婚後、子どもが欲しいと思っていましたか。

イ	すぐ欲しいと思っていました	12	30.3%	ロ	なるべく早く欲しいと思っていた	20	50.0%
ハ	すぐには欲しいと思わなかった	8	20.0%	ニ	子どもを欲しいとは思わなかった	—	—

4. あなたは妊娠を知ったとき、どのような気持ちでしたか。

イ	うれしい気持ちで一ぱいでした	21	52.5%	ロ	うれしい気持ちもあったが、とまどう気持ちもあった	19	47.5%
ハ	うれしいとは思わなかった	—	—	ニ	がっかりした	—	—

8. 今度の赤ちゃんが生まれてくることで、母親となる期待感はどうでしたか。

イ	うれしく期待していた	29	72.5%	ロ	それほど期待感を持っていなかったが、うれしかった	8	20.0%
ハ	いずれ親になれるのだと思った	—	—	ニ	母親への期待はさほど感じなかった	—	—

B 夫並びに家族の態度

5. あなたの夫は子ども好きですか

イ	とても好きである	25	62.5%	ロ	子ども好きのほうである	14	35.0%
ハ	あまり子ども好きなほうではない	1	2.5%	ニ	子ども好きではない	—	—

6. あなたの夫は結婚後、子どもを欲しいと望んでいましたか。

イ	すぐに欲しいと望んでいた	13	32.5%	ロ	なるべく早く欲しいと望んでいた	25	62.5%
ハ	すぐには欲していなかった	2	5.0%	ニ	子どもを欲していなかった	—	—

7. あなたの夫はあなたが妊娠したことを知った時、どのような気持ちを現わしましたか。

イ	とてもよろこんでいた	35	87.5%	ロ	よろこんでいたがとまどう気持ちもあった	5	12.5%
ハ	あまり喜ばなかった	—	—	ニ	全くよろこばなかった	—	—

16. お母さんが何か心配ごとがあるとき、御主人の態度はどうですか。

イ	なんでも気軽に相談にのってくれる	32	80.0%	ロ	話しは聞いてくれるが、具体的なことは聞いてくれない	5	12.5%
ハ	話しても聞いているだけで話にくい	—	—	ニ	母親のことだといって相手にしてくれない	—	—

15. お母さんが未熟児を生んだことに対して御家族の反応はどうでしたか。

イ	暖かく迎えてくれ元気づけてくれた	32	80.0%	ロ	別にいつもと変わらなかった	6	15.0%
ハ	なんとなく冷たい態度だった	1	2.5%	ニ	非難された	—	—

表1. b

C 母親の意識及び態度

9. 出産以前に未熟児が生まれるのではないかと思われましたか。				
イ	全く考えなかった	15 37.5%	ロ そんなこともあると思った	7 17.5%
ハ	不安な気があった	14 35.0%	ニ 生まれるなら小さいのではないかと思った	4 10.0%
10. あなたの夫があかちゃんのことを話された時、お母さんはどんな気持ちでしたか。				
イ	全く心配ないと云われ安心した	19 47.5%	ロ 小さいから心配だといわれたが気にしなかった	6 15.0%
ハ	夫の話だけでは心配だった	13 32.5%	ニ 夫に話されて心配が一層強まった	2 5.0%
11. 赤ちゃんが未熟児室に入って離れていた時のお母さんの気持ちはどんなでしたか。				
イ	病院を信頼していたので心配しなかった	12 30.0%	ロ これといって感じなかった	1 2.5%
ハ	子どもにかわいそうだと思った	10 25.0%	ニ いつも赤ちゃんのことが気がかりだった	17 42.5%
12. 未熟児が生まれたことでお母さんとしてはどんなお気持ちでしたか。				
イ	それほど深く考えなかった	2 5.0%	ロ しかたのないことだと思った	3 7.5%
ハ	赤ちゃんに悪いと思った	31 77.5%	ニ 母親としての資格に欠けると思った	2 5.0%
13. 赤ちゃんの存在がわずらわしいと思うことがありますか。				
イ	わずらわしいことはない	33 82.5%	ロ それほどわずらわしいとは思わない	5 12.5%
ハ	わずらわしいことがある	1 2.5%	ニ いっそいかなかったらと思うことがある	— —
14. これからお子さんを養育していくうえでのお母さんの自信のほどはどうか。				
イ	自信をもって育てていける	6 15.0%	ロ 自信があるとはいえないがやってみよう	32 80.0%
ハ	自信がなく不安である	1 2.5%	ニ 全く自信がないから誰れかに頼みたい	— —
17. 今母親として赤ちゃんに期待するものは何ですか。				
イ	丈夫な赤ちゃんに育てほしい	39 97.5%	ロ 育ててくれればよい	— —
ハ	あまり期待しても仕方がないと思っている	— —	ニ これといって期待するものはない	— —
18. 赤ちゃんに初めて面会出来るまでのお母さんのお気持ちはどうでしたか。				
イ	早く会いたくてしかたがなかった	36 90.0%	ロ 会いたい気持ちもあったが反面会いたくないと思った	3 7.5%
ハ	それほど会いたいとは思わなかった	— —	ニ 会いたいとは思わなかった	— —
19. 赤ちゃんに会って自分の子どもという実感がもてましたか。				
イ	自分の子どもという思いでいっぱいでした	22 55.0%	ロ 少しは実感がもてた	10 25.0%
ハ	自分の子どもといわれてもなんとなく信じられなかった	7 17.5%	ニ 自分の子どもとは思えなかった	— —
20. 赤ちゃんに触れてよいといわれたときはどうでしたか。				
イ	触れてみたくてしかたがなかったのでうれしかった	24 60.0%	ロ 先生に触れてもよいといわれたのでその気になった	9 22.5%
ハ	触れてよいといわれても手が出なかった	4 10.0%	ニ 先生にいわれても手を入れる気になれなかった	1 2.5%
21. 赤ちゃんに触れた時、どんなことを感じましたか。				
イ	はだのぬくもりを感じ胸にじんときて来た	24 60.0%	ロ 自分の子どもなのかと思いつつ触れていた	11 27.5%
ハ	触れてもさほど感じるものはなかった	— —	ニ なんとなく気持ちが悪かった	— — %

表2. a

№ 月 日 時間 AM PM : ~ : 氏名 面会回数 記入者

未熟児における母親の態度行動観察のための目録

1. 未熟児へ入る時の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
自分から進んで入っていく	あまり抵抗なく入る	うながされて入る	入るのをためらっている	なかなか入ろうとしない

2. 赤ちゃんの所へ来るまでの態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
少し足ばやに赤ちゃんの所へ来る	ためらいなく来る	少しためらいながら来る	ためらいながら重い足どりで来る	うながされて重い足どりでやって来る

3. 赤ちゃんを見た時の母親の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
身をのり出して見ている	意味ありげに見ている	まんざんと見ている	時に見たくないといった素振りが見られる	見ようとする気がない

4. 赤ちゃんの前にまず着いた時の母親の子どもへの呼びかけ

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
赤ちゃんの名前を呼んだり呼びかけをする	何か母親であることを意識させる	呼びかけをする	しばらく黙っているが何か素振りがある	呼びかけも素振りも全くない

5. 母親に手を入れてもよいと言った時の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
すぐ手を入れる	少しためらっているがすぐ入れる	何回か言われて手を入れる	なかなか手を入れようとしながやっとう入れる	手を入れることに全く消極的である

6. 母親が赤ちゃんに触れる時の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
自ら積極的に触れようとする	触れることに意欲的である	触れたい気持はあるがそれほど積極的ではない	かなり励ましてやらないと触れない	触れようとする気がみられない

7. 面会中に赤ちゃんの名前を呼んだり話しかけたりする度合

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
親しそうに名前を呼んだり話しかけたりする	話しかけはする	あまり話しかけはないが関心はある	話しかけなどない	話しかけもなく関心もうすい

表 2. b

8. 母親の赤ちゃんへの触れ方について

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
体に触れるだけでなく抱きたい素振りもある	足や手にかなり頻ぱんに触れる	足や手にふれることはある	手を入れるが多 くはない	触れることをこわがってやらない

9. 赤ちゃんのそばにいる時の母親の表情

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
とても楽しそうでよこびの表情がある	かなり楽しそうな表情がある	楽しそうな表情はみられないがいやといった感じはない	無表情で時にどうしていいかわからないといった表情である	どうしてよいかわからないといった表情である

10. 赤ちゃんのことについての母親からの質問

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
何か積極的に聞いてくる	時には聞いてくることがある	何かあれば聞いてくる	聞こうとする ことはない	聞こうとする素振り は全くみられない

11. 赤ちゃんのことを話してやるときの母の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
話を真剣に納得するまで聞いている	一応真剣に聞いている	話は聞いている	話しても受け流しているだけである	かえって迷惑だという態度がみられる

12. 面会を通しての母親の態度

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
面会中非常に積極的に赤ちゃんに対して	積極的ではないが興味関心はかなり強い	一応の興味関心は示している	面会も時に手もちぶたさである	面会中時にいたくないといった拒否的な態度がみられる

MEMO

表3.

お 願 い

お母さん方はあかちゃんに接していろいろなお気持ちをお持ちのことと思います。

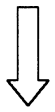
それで、もう一度お母さん方のお考えをお聞しまして、今後の育児のあり方に役立たいので、どうぞありのままの御意見をおきかせください。

1. これからお子さんを養育していくうえで自信のほどはどうか。 14
2. 初めて赤ちゃんを見た時はどんな感じを持ちましたか
3. 赤ちゃんを見せてもらえるのはいつごろがよいと思いますか
4. 授乳についての母親の考えについて
5. 今 母親として赤ちゃんに期待するものはなんですか。 17
6. 赤ちゃんに会う前と後ではお母さんの気持はどうですか。
7. 面会するごとにお母さんの赤ちゃんに対する愛情のどあいはどうですか。
8. 赤ちゃんにあって自分の子どもという実感がもてましたか。 19
9. 赤ちゃんにあって自分の子どもという実感がもてたのはいつごろですか。
10. 実際の育児にあたってお母さんが感じていることは何ですか。
11. 赤ちゃんをだっこしたい気がおきましたか。
12. 赤ちゃんをだっこしたい気がおきてきたのはいつごろからですか。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

望ましい母・子関係とは、出生時より母親から子への愛情による絆で結ばれた適切な刺戟が提出されることである。

しかしながら、不幸にして出生の時点で、未熟児であるといった理由で特別の養護を受けなければならない新生児がいる。これらの新生児は、母子分離が余儀なくされるのであるが、この早期の母・子分離は、母子の行動に変容を来し、その後の子供の成長・発達に負の要因をあたえたとの研究があり、注目されている。

われわれの施設では、子どもの全人的な成長・発達にとって、早期の母・子分離は決して望ましいことでなく、母親の子どもへのふれあいがあるべき姿を考え、感染防止に充分留意して、可能な限り早期に施設内において母子の接触を実施している。

ここに、われわれの NICU を含む新生児特別養護施設(以下未熟児センターと云う)における早期からの母子接触が、いかなる相互作用をもたらし、Bonding の問題にいかなるよき効果を期待が出来るものなのかなど、その早期接触の意義を解明するため、以下にのべる諸種の調査、観察・測定することを意図して本研究を行う。